

第2回 F-GENS シンポジウム

米ソ冷戦体制の緊張関係が変容し、より複雑で困難なポスト冷戦期という新たな世界状況を迎えています。ジェンダー研究は、このような状況を切り拓くどのような知と実践を提示しうるでしょうか。このような認識に立ち、私たちは、「ポスト冷戦期のアジアとジェンダー研究」と題する、第2回F-GENSシンポジウムを開催し、間アジア的視点から語りあう場を設定することを考えました。また、このシンポジウムを、2年間余の研究教育拠点形成活動の成果に基づく、中間報告型シンポジウムとして位置づけ、各プロジェクト研究の報告セッションと若手研究者たちが企画・運営・報告するセッションを設けました。130周年を迎えるお茶の水女子大学を拠点として、新たな展開が生み出されて行くことを期しています。

11/5 sat			
開会式 基調講演	(開場 9:45) 10:15 ~12:00	共通講義棟 2号館 201号室	お茶の水女子大学学長挨拶: 郷 通子 F-GENS 拠点リーダー挨拶: 戒能民江 戴 錦華(北京大学)「ポスト冷戦期の文化政治とジェンダー」 (中日逐次通訳: 石井剛(明星大学専任講師))
第1 セッション	(開場13:00) 13:30 ~17:00	共通講義棟 2号館 201号室	パネルディスカッション 「冷戦期以降の(他者)としての日本 ジェンダー表象の政治」 新城郁夫(琉球大学)「ホモエロティクスの政治的配置と『冷戦』 沖縄へのまなざしと沖縄からのまなざしとの抗争」 新田啓子(一橋大学)「武術映画における男性性の逸脱 - 性とエスニシティのきたす混乱」 キム・ウンシル(梨花女子大学)「The Differences that Japanese Women Found in <i>Winter Sonata</i> 」 ディスカッサント: 坂元ひろ子(一橋大学) ヴェラ・マッキー(メルボルン大学) コメンテーター: 戴 錦華(北京大学) タニ・バーロウ(ワシントン大学) 司会: 菅 聡子/館かおる(お茶の水女子大学) (英日同時通訳あり)
懇親会	17:30~	生協食堂	

11/6 sun.			
若手研究者 企画 セッション	(開場 9:30) 10:00 ~12:00	「アジアから発信するジェンダー研究の現在(いま) 若手研究者の視点から」	
		生活科学部 本館 209号室	分科会A「境界に挑戦する ジェンダー、人種 階級 国家」 報告者: 小林淳子(COE 公募研究採択者) 鳥山純子(COE 研究員) 丹羽敦子・松永典子(COE 公募研究採択者) コメンテーター: 徐 阿貴(COE 研究協力者) 山口菜穂子(COE 研究員)
		生活科学部 本館 306号室	分科会B「暴力の不可視性 文化の脱ジェンダー化をめざして」 報告者: 内海紀子(COE 研究員) 大理奈穂子(COE 研究員) 小門 穂(COE 研究協力者) 柳原良江(COE 研究員) コメンテーター: 倉田容子(COE 研究員) 古澤有峰(東京大学大学院人文社会系研究科博士課程)
	(開場13:00) 13:30 ~17:00	共通講義棟 2号館 201号室	シンポジウム「変貌するアジアとジェンダー平等政策の困難」 竹村和子(お茶の水女子大学)「ポスト冷戦期のフェミニズムとポストコロニアリズム」 篠塚英子(同)「パネル調査(韓国・中国)からみるジェンダー平等政策」 波平恵美子(同)「沖縄における性教育の政策的課題」 戒能民江(同)「日本における女性の人権政策課題」 コメンテーター: 伊藤るり(お茶の水女子大学) 柘植あづみ(明治学院大学) ラセル・パレーニャス(カリフォルニア大デイヴィス校) 司会: 石塚道子/足立真理子(お茶の水女子大学) (英日同時通訳あり)

2005年
11月5日、6日
第2
セッション
於
お茶の水女子
大学

ポスト冷戦期の アジアとジェンダー研究

Inter-Asia Gender Studies in the Post-Cold War Era

参加ご希望の方はメールでご連絡ください f-genszn@cc.ocha.ac.jp

21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」事務局
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 Tel: 03-5978-5547 Fax: 03-5978-5548

URL: <http://www.igs.ocha.ac.jp/f-gens/>